

32 : 27 「見よ。わたしはすべての肉なる者の神、【主】である。わたしにとって不可能なことが一つでもあろうか。

32 : 28 それゆえ——【主】はこう言われる。——見よ。わたしはこの都をカルデア人の手と、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡す。彼はこれを攻めとる。

32 : 43 あなたがたが、『この地は荒れ果てて、人も家畜もいなくなり、カルデア人の手に渡される』と言っているこの地で再び畑が買われる。

【ローマ人への手紙】

12 : 19 愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。

【マタイの福音書】

16 : 24 それからイエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」

* 特に断りが無い限り、新改訳2017より使用

=====

アナトテの町

- ①エルサレムの北東4キロにある。ベニヤミン領のレビの町(ヨシ21 : 18、1歴6 : 60)。
- ②ソロモンの時代には、祭司たちが住んでいた(1列2 : 26~)
- ③アナトテの地は、捕囚を経てイスラエルが回復する希望の表徴として存在する(エレ32 : 26-35)



「エレミヤの暗殺計画～神の奉仕者の心構え」

| エレミヤ書講解-28 エレミヤ書11 : 18-23 他 小野寺望 牧師

【エレミヤ書 11章】

- 18 「【主】が私に知らせてくださったので、私はそれを知りました。それからあなたは、彼らのわざを私に見せてくださいました。私は、屠り場に引かれて行く、おとなしい子羊のようでした。
- 19 彼らが私に敵対して計略をめぐらしていたことを、私は知りませんでした。『木を突とともに滅ぼそう。彼を生ける者の地から断って、その名が二度と思い出されないようにしましょう』と。
- 20 しかし、正しいさばきをし、心とその奥にあるものを試す万軍の【主】よ。あなたが彼らに復讐するのを 私は見るでしょう。私があなたに、私の訴えを打ち明けたからです。」
- 21 それゆえ、主はアナトテの人々について、こう言われる。「彼らはあなたのいのちを狙い、『主の名によって預言するな。われわれの手にかかって、あなたが死なないように』と言っている。
- 22 それゆえ——万軍の主はこう言われる——見よ、わたしは彼らを罰する。若い男は剣で死に、
- 23 彼らの息子、娘は飢えで死に、彼らには残る者がいなくなる。わたしがアナトテの人々にわざわいを下し、刑罰の年をもたらすからだ。」

(4ページへ続く)

◆ はじめに

| 神の奉仕をする者の心構え

1. 迫害を受ける必然性

- (1) 主の働きに参加している人で、他の人から批判や中傷を受けていない人はないだろう。どんなに一生懸命やっても、必ず批判のことはある。
- (2) イエス様をはじめ、使徒や預言者たちの対応から学ぶ点が多い。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神の奉仕をする者の心構え

*このメッセージは、迫害についての覚悟と真に価値あるものについて学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I エレミヤの暗殺計画（19～20節）

1. 暗殺計画を示唆する主

(1) エレミヤは同郷の人々から批判を受けている。

- ①エレミヤの故郷であるアナトテ（エレ1：1）は祭司の町。
- ②批判どころか、いのちさえも狙われた。
- ③神は人々の怒りとその企てをエレミヤに伝えた。

(2) 批判の原因

- ①エレミヤがヨシヤ王の宗教改革を支持したことへの妬みから？
- ②ヨシヤ王は、法令によって地方聖所を抑圧を進めた。
* 経済的理由：偶像礼拝に伴う営利活動の損失
* 宗教的理由：人々に真理を示し、罪の意識を与えた。
* 政治的理由：偽善的な政治を公に避難した。
* 個人的理由：各人の確信を否定され、プライドから反論した。



2. エレミヤと人々の態度

(1) エレミヤの態度：「ほぶり場に引かれているおとなしい子羊」

- ①意味：間もなく殺されるとも知らずに、おとなしくしている子羊のこと。
イザ53：7、使徒8：32
* 神への信頼ゆえに、死にまでも御心ならば従う従順さ

(2) 批判する人々の様子：「木を実とともに滅ぼそう」

- ①意味：エレミヤとその業績を完全に破壊する意味。
* 彼はのちに結婚をも禁じられた（16：2）子をもうけても、虐殺されるから

◆ 因みに、この自己否定はエレミヤに与えられた3禁の一つ。

ほかに、葬儀への参列の禁止、結婚式などの祝宴への出席の禁止がある。

いずれも、捕囚と関係したものであり、当時の習慣からすると非常識なもの。

II エレミヤの祈り～アナトテの地の滅び（20～23節）

1. 神の義を求める祈り：

- (1) エレミヤは殺意を抱く人々の破滅を求めた。※執りなしの禁止（14節）
- (2) 祈りの意味：正しく評価するためには、詩篇79：6から学ぶ必要がある。
 - ①彼の祈りは個人的な復讐の成就ではない。
 - ②神の計画に従い、主の復讐が成就し、その義が守られることを願っている。
- (3) すべてのさばきを神にゆだねた。復讐は神がなさる。ロマ12：19、ヘブ10：30

2. 祈りへの応答

- (1) アナトテの人々の罪
 - ①エレミヤに預言させないようにしたこと＝神のことばに対する罪
 - ②預言者への迫害ゆえにアナトテの人々はさばかれる。
- (2) 罪の刈り取り：御心を心得た祈りの結果であり、神の義の現れ。
 - ①「残る者はいなくなる」の意味：燃える枝（16節）
* 全住民の抹殺でなく暗殺計画に加わった者たちを滅ぼし去るという意味。
 - ②根拠：バビロン捕囚を経て、アナトテの人々は128人が帰還した。
（エズ2：23、ネヘ7：27）→神の恵みを見出すことができる。

III エレミヤの買い戻し～アナトテに見る希望（エレ32：26-35より）

(1) アナトテの土地は決して滅び去ることがない。

- ①のちにエレミヤには、捕囚前に土地を安く買い占めるように命じられる。
- ②神の視点に立って行動し、希望を見出すことの大切さが見える。

◆ まとめ：神の奉仕をする者の心構え

1. 偶像や誤った信仰を責めて、迫害された神の奉仕者たち（一例）：

エリヤ（1列19章）、イザヤ（ヘブ11：37?）、バプテスマのヨハネ（マタ14章）
ステパノ（使徒7章）パウロ（使徒19章）・・・イエス・キリスト

2. 奉仕を通して不当な扱いや迫害を受けたとき

- (1) 主の働きに参加している人は、どんなに一生懸命やっても、必ず批判はある。
 - ①それが的を得た批判ならば、真摯に対応しないといけない。
 - ②理不尽な迫害に対して、どのように解決するか。
* 地上的な対処を、すべて否定するのは誤りである。バランスが大切。
- (2) すべての基本になるのが、主に信頼すること。主はすべてをご存じである。
* ゆだねつつ、信頼して、（地上的なことを含め）成すべきことは行う。
* 主の弟子は、その苦難を分かち合う者（だから互いに労わり合う）。

3. 本当に労力を費やすべきもの

(1) 時間、財、労力、機会・・・それぞれを何に費やすべきか？

* 神様の御名に勝るものはなく、神に費やして後悔することはありません。